

第 129 号

2021.2 発行

総研大 NEWSLETTER



トピックス

- ◆ 学長・年頭のご挨拶
- ◆ 高エネルギー加速器科学研究科 2020 年度学生デー開催
- ◆ 総研大文化フォーラム 2020 を開催
- ◆ 日本文学研究専攻 中間報告論文研究発表会をオンラインで開催
- ◆ 令和 2 年度附属図書館職員研修会
- ◆ 令和 2 年度永年勤続者表彰式を挙

受賞情報

プレスリリース情報

研究助成学生の研究紹介

メディア等出演・掲載情報

イベント情報

学長・年頭のご挨拶



みなさま、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年は、新型コロナウイルスの感染が世界的に広がり、緊急事態宣言が出されたり、その解除のあとでもまた第2波、第3波がきたりと、思ってもみななかった状況になってしまいました。事態はまだあまり変わらず、みんなで集まって楽しくワイワイやることのできないのは、とても残念です。

しかしながら、このコロナ禍と呼ばれる事態は、これまでは変えようと思っけていても変えられなかったことを、変えるように私たちに強制し、これまでは当然だと思っけていた価値観を考え直す機会ともなりました。オンラインで在宅勤務をすることなど、何年も前から提言はされていたし、技術もそれなりに発達していました。また、満員電車で毎日通勤することも、何かおかしいと誰もが思っけて、それを止めるという決定ができませんでした。認知的には理解していても、なかなか変えることはできない。人間というものは、切羽詰まった外圧がない限り、変わることができないのか？ 日常という慣性の強さを改めて感じた次第です。

今までと同じことはできないとなると、どうしたらよいのか。オンラインや在宅の良し悪しもだんだんにわかってきました。どんな暮らし方が良いの

か、みんなで学んだ結果として、少しずつ改善していけると思っけています。でも、やはり人間はみんなで集まって顔を合わせ、互いに場を共有しながら共同作業をしなければならぬ存在なのだと思います。なぜなら私たちは社会性の動物なのですから。

院生のみなさんの研究と生活の状況はいかがでしょう？ 困っていることで、大学が何かできるはずだと思っけていたことがありましたら、遠慮なくご連絡ください。実際に何ができるかわかりませんが、精一杯、みなさんのためになることを探りたいと思っけています。こんな中でも、みなさんの研究が進み、無事に博士論文を書き上げることができるよう、お祈りします。いろいろあるけれど、研究は楽しい、という気持ちが前進の原動力です。そして、未来の社会を築いていくのは若い世代のみなさんです。これまでの文明のあり方を考え直し、新しい価値観を提言していっけてください。

教職員のみなさんも、いろいろと異なる面で大変なことと存じます。しかし、どんなことになっても、なんとか乗り切っけていこうという前向きな視点を忘れないようにしましょう。2021年は、また、大学の運営にとって新しい展開の時でもあります。第3期中期目標・中期計画の最後の年ですし、第4期に向けて新たな挑戦を始める年でもあります。課題も山積みですが、これも、悲観的になることなく、いろいろと考え、議論し、少しでもよい方向に向かっけて進んでいっけていきたいと思います。

今年が丑年。あせらずゆっけてりと、でも着実に歩んでいっけていましょう。みなさんのご活躍をお祈りいたします。

総合研究大学院大学 学長
長谷川眞理子



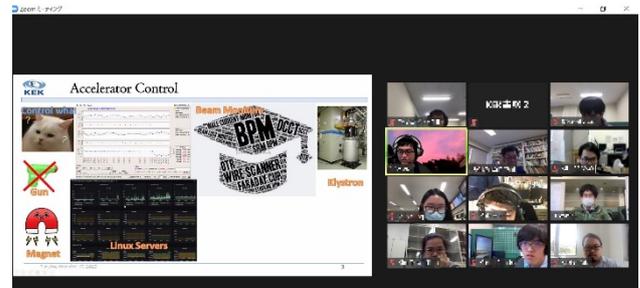
高エネルギー加速器科学研究科 2020 スチューデントデイ開催

11月17日(火)高エネルギー加速器研究機構(KEK)で、第7回「KEK スチューデントデイ」が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症防止のため、初のオンラインでの開催となりました。例年ポスターセッションを対面式で行っていることから、オンラインでの開催は難しいのではとの意見もありましたが、コロナ禍で貴重な学生同士の交流の機会を提供したいとの研究科の方針から、プログラム内容を工夫するなどして開催する運びとなりました。スチューデントデイには、総研大・高エネ研究科所属学生はじめ、連携大学院生、特別共同利用研究員等計約70名が参加し、学生同士交流を深めました。

プログラムは第1部と第2部に分かれており、第1部では加速器、物構、素核の3専攻と連携大学院生の代表それぞれ1名が15分ずつ講演を行いました。講演では、自身のコロナ禍での研究事情や欧州合同原子核機関(CERN、スイス、フランス)や大型低温重力波望遠鏡(KAGRA、岐阜県飛騨市)などKEK以外の研究所施設での生活や研究の様子、苦勞などを英語でユーモアを交えつつ発表し、参加者の笑いを誘いました。

第2部では、素粒子、物質構造、加速器の3分野ごとに総研大生、連携大学院生、特別共同利用研究員の混成グループを形成し、自己紹介、自身の研究内容の紹介について各自10分程度でプレゼンを行いました。久しぶりの大規模な学生同士の交流の機

会ということもあり、参加者はいきいきと自分の研究について紹介し、それに対して質問が飛び交うなど有意義な時間となりました。



Student Day オンラインの様子

今年度はオンラインで開催したことにより、東海キャンパスや自宅、KEK以外の研究所施設からの参加、さらには10月入学でまだ来日できていない学生が海外から参加するなど、オンラインならではのメリットがありました。一方で対面式と比べて学生間の交流面では物足りない部分もあったようです。スチューデントデイを含め、今まで対面式で行っていたイベントの開催方法について見つめなおす良い機会となりました。研究科として学生を第一に考え、よりよいイベントとなるようさらなる工夫、前例にとらわれない柔軟な対応が求められます。

【高エネルギー加速器科学研究科】



総研大文化フォーラム 2020 を開催 — 日文化研でハイブリッド開催 —

総合研究大学院大学は、12月5日・6日の2日間、国際日本文化研究センター(日文化研)を会場に総研大文化フォーラム2020を開催しました。総研大文化フォーラムは、総研大唯一の文系研究科である文化科学研究科が主催する学術講演会であり、「文化」を切り口として、さまざまな専門分野を持

つ学内外の教員と学生の学術的な交流の機会を提供しています。

今回は初めての試みとして、会場・オンライン併用のハイブリッドで開催し、「文化のレジリエンスとは?—〈異〉をつなぎ、未来へ—」をテーマに活発な議論が交わされました。基調講演(5日)には小松和彦名誉教授(前国際日本文化研究センター所

長)を迎え、「見えないものに対する恐れと人間—文化科学研究の観点から—」と題し、蛇抜け伝承、地震鯰、疱瘡神などを例に人の目には認識できない、人の力の及ばない災禍を当時の人々がどう捉え、行動変容をもたらしてきたのかが述べられました。シンポジウム(6日)では「災いから考える文化のレジリエンス」と題し、分野の異なる4名の



総研大文化フォーラム当日の様子

パネリストを中心に活発な議論が交わされ、流行語を無批判に取り入れ流布させることの危険性が訴えられました。その他、口頭発表とポスター発表がそれぞれ6件行われ、教員・学生が専門分野を超えて質疑・討論を行いました。

コロナ禍により例年と大きく異なる状況のもと、企画委員の学生を中心に新たな開催形態を模索することとなりましたが、YouTubeLiveやZoomを中心としたオンラインツールの活用や、これまで公式には行っていなかった学外者のオンライン参加の募集などに挑み、一定の成果を収めました。

【学務支援係】



日本文学研究専攻 中間報告論文研究発表会をオンラインで開催

11月27日(金)、日本文学研究専攻では2020年度中間報告論文研究発表会をオンラインで開催しました。当発表会は博士論文作成指導のステップの一つで、学生が研究成果や調査の進捗状況を報告し、質問に答え、教員から指導を受けることで課題を整理し、研究の方向性を考える機会となっています。



熱心にメモをとり、教員からの研究指導を受ける一年生の伊藤美幸さん

今年度は在学生5名が発表を行いました。学生は事前に自主的にオンラインで研究会を開催して発表の練習を行い、今回の発表会に備えてきました。

発表者のうち、今年度入学した伊藤美幸さんは研究対象である切附本(きりつけぼん)と呼ばれる幕末から明治初期にかけて出版された大衆向けの絵入本について、先行研究と調査した作品の翻刻を紹介しながら博士論文の方向性を示しました。同じく一年生の石井行雄さんは園城寺資料を研究の対象として

おり、自身が調査のなかで撮影した写真で資料の料紙の状態を示し、研究の全体像と進捗状況を報告しました。二人にとっては今回が専攻内での初めての発表の場となりましたが、緊張しながらも落ち着いて発表する姿が見られました。



自ら撮影した資料写真について、教員からの質問に答える一年生の石井行雄さん

発表を受けて、教員からは用語の概念に関する質問や現地調査で留意すべき点について意見が寄せられ、学生は熱心にメモをとり、教員とのやりとりのなかで課題や今後の研究の進め方を整理している様子でした。学生は今回の発表会での研究指導を生かし、2月の中間報告論文の提出に向けて準備を進めます。

【日本文学研究専攻】



令和2年度附属図書館職員研修会

10月12日(月)、13時30分から17時30分まで、コロナ禍の状況の中、Webex オンライン形式で、令和2年度附属図書館職員研修会が開催されました。今年度は、附属図書館を構成する各基盤機関の図書館・図書室の担当教職員29名の参加がありました。

研修会では、貝塚室長の司会進行のもと、渡辺附属図書館長(理事)からの開会の挨拶に続き、意見交換会が開かれました。Scopus の費用負担について、ScienceDirect の PPV についての報告、院生の論文に付随する研究データについて、柳生副館長からの報告に基づき意見交換を行いました。

承合事項としては、総合検索システム nihuINT のデータメンテナンス体制について(人間文化研究機構所属のみ)、及び、コロナ対策として各機関はどのようなことを行っているか、の2点の承合事項を、あらかじめ各基盤図書館/室に状況を伺い、とりまとめ、報告しました。

また、外部講師をお招きして、講演会が開かれました。講師はアカデミック・リソース・ガイド株式会社の岡本真先生で、「コロナ禍における図書館サービス」ー現状の把握から未来の創造へーと題して、コロナ禍において、公立、国立、専門、大学図

書館がどのような状況であるか、今後どうしてくとよいのか、熱のある意見を提示していただきました。

下記に講演資料の場所をお知らせします。興味のある方はご一読ください。



アカデミック・リソース・ガイド株式会社
岡本真先生

参考) 本学リポジトリ掲載「コロナ禍における図書館サービス」ー現状の把握から未来の創造へー

■講演資料

<http://id.nii.ac.jp/1013/00005934/>

今年度は、オンライン開催になり、利点と課題の両方ありましたが、こうした新たな時代を見据え、研究機関に付属する図書館/室がどのように研究者・学生を支援していくと良いか考える機会になりました。ご参加の皆様ありがとうございました。

【学術情報基盤事務室図書係】



令和2年度永年勤続者表彰式を挙行

令和2年11月17日(火)、葉山キャンパスの学長室において永年勤続者表彰式を挙行しました。これは、「職員の永年勤続者表彰に関する規則」に基づき、永年誠実に勤務し、その成績が優秀で他の模範となる教職員を表彰するもので、令和2年度は勤続20周年を迎えた4名が表彰されました。



学長室にて記念撮影

式では、長谷川学長から表彰状と記念品が授与され、これまでの尽力に対する感謝の意が表せられました。引き続き、記念写真の撮影が行われ、和やかなうちに終了しました。

【人事係】

Awards

■ 総合研究大学院大学 名誉教授 2 名が令和 2 年度秋の叙勲受賞

受章者氏名	賞賜	功労概要	主要経歴
小松 和彦	瑞宝重光章	教育研究功労	元 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国際日本文化研究センター所長
永嶺 謙忠	瑞宝中綬章	教育研究功労	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構名誉教授

■ 堀田凱樹 名誉教授 文化功労者に選出

【授賞理由】

発生遺伝額分野において、脳機能の「解析を目指してショウジョウバエをモデルにした遺伝学を展開し、行動遺伝学、生物物理学、神経発生遺伝学等の分野に「おいて多くの顕著な業績を上げ斯学の発展に多大な貢献をされました。（引用：文部科学広報第 253 号 2020 年 12 月）

文部科学広報：

<https://www.koho2.mext.go.jp/253/html5.html#page=2>

本学：

<https://www.soken.ac.jp/news/6834/>



■ 総合研究大学院大学 家正則 名誉教授 日本学士院の新会員に選定

日本学士院は、2020 年 12 月 14 日開催の第 1144 回総会において、新たに 10 名の日本学士院会員を選定し、家正則名誉教授（国立天文台）が選ばれました。

[URL]

<https://www.soken.ac.jp/news/6891/>



■ 複合科学研究科情報学専攻 鯉淵道紘 准教授 日本学士院学術奨励賞を受賞

2021 年 1 月 12 日、複合科学研究科情報学専攻（国立情報学研究所）の鯉淵道紘准教授が、第 17 回（令和 2 年度）日本学士院学術奨励賞を受賞しました。

【授賞理由】

従来の並列計算機システムの相互結合ネットワークは、メッシュ、ツリーなどの規則に従って構成されており、これはメッセージ移動時間の最小値を与えるものでないことが知られていましたが、並列

計算の大型化に従って、この遅延時間が並列計算発展の大きな障害になってきました。このような状況の中で、本研究は計算ノード間の規則的配線にランダムな配線を追加することによって遅延時間の最小化を図ることに成功した画期的な研究です。配線のトポロジカルな構造をグラフ表現し、グラフ上のノードからノードへメッセージが転移する回数を少なくすることで、結果的に遅延時間を 100 分の 1 に減少するという革命的な結果を得ました。一方、計算

上のランダム配線は物理世界において当然複雑な配線を必要とします。鯉淵道紘氏はこの理論結果の実現のために克服しなければならない難問を、超広域の光無線によるケーブルレス化の実現により、並列計算に特徴的であったラック間の複雑な配線を不要にするという画期的な発明によって解決しました。この成果は現在世界的に大きな注目を集め、大型計

算の進歩の一つの主導的立場を獲得したと言えます。

[URL] <https://www.soken.ac.jp/news/6914/>



■ 文化科学研究科地域文化学専攻 伊藤敦規 准教授 地域研究コンソーシアム(JCAS) 地域研究コンソーシアム賞研究企画賞

地域文化学専攻 伊藤敦規准教授が、「ソースコミュニティと博物館資料との「再会」プロジェクト」により地域研究コンソーシアム賞研究企画賞を授賞しました。

[URL] <http://www.jcas.jp/jcas2020.html>



■ 文化科学研究科比較文化学専攻 關雄二 教授 令和2年度文化庁長官表彰

2020年12月17(木) 比較文化学専攻の關雄二教授は、令和2年度文化庁長官表彰被表彰者として、文化庁長官より表彰されました。

【功績概要】

永年にわたり、日本とペルーの文化財研究の発展と連携に尽力し、ペルーの文化遺産の国内外における発信や啓発に大きく寄与し、我が国の文化財保護と国際協力に多大な貢献をしている。

【受賞コメント】

アンデス文明に関する研究成果を国内外に周知し、また地元住民とともに保存と利用をしてきたことが報われた気がします。私のプロジェクトに関わられたすべての関係者と喜びを分かち合いたいと思います。

[URL] https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92684701.html



■ 物理科学研究科構造分子科学専攻 倉持光 准教授 第13回井上リサーチアワードを受賞

協奏分子システム研究センターの倉持光准教授が「反応座標の可視化を目指した新規超高速多次元分光法の開発と応用」の業績により、第13回井上リサーチアワードを受賞しました。

井上リサーチアワードは、自然科学の基礎的研究で優れた業績を挙げ、更に開拓的発展を目指す若手研究者に対して、研究の独創性を育み自立を支援

することを目的として、井上科学振興財団より授与されます。

[URL] https://www.ims.ac.jp/news/2020/12/25_4870.html



■ 生命科学研究科遺伝学専攻修了生の渡辺紘己さんが井上研究奨励賞を受賞

本学修了生の渡辺紘己さん（生命科学研究科遺伝学専攻修了）が、第37回（2020年度）井上研究奨励賞を受賞しました。

【博士論文題目】

中心体構築における Cep57 の機能解析

[URL] <https://www.soken.ac.jp/news/6882/>



■ 核融合科学専攻 D4・山口 敬済さん

The 38th JSST Annual International Conference on Simulation Technology (JSST2019) Outstanding Presentation Award 1 (2020年5月1日)

[受賞者コメント]

この度は日本シミュレーション学会「Outstanding Presentation Award」をいただき、大変光栄なものと存じます。題材は高温超伝導体中の磁気遮蔽電流密度解析に関わり、等価回路法と遺伝的アルゴリズムを組み合わせて超伝導応用機器を数値的に最適化しました。研究を進めるにあたり、指導教員の大谷寛明先生をはじめとする多くの先生方からご指導いただきました。厚く感謝申し上げます。また、頂いた賞に恥じぬよう邁進してまいります。

■ 核融合科学専攻 D5・山崎 樂さん

The 38th JSST Annual International Conference および第5回核融合科学研究所大学院コロキウム学生優秀発表賞 (2020年10月30日)

[受賞者コメント]

溶融フッ化物塩中の溶存水分とフッ化水素による構造材料の腐食機構をそれぞれ解明して、その特性を比較できたことが受賞に繋がりましたが、観察された腐食生成物に関しては、もしかしたら腐食の抑制に貢献できるかもしれないなど楽しみな点が多く残っており、解明の余地に事欠かないと思っています。

核融合研や同志社大学後藤研究室の皆様のご支援あつての受賞でした。深く御礼申し上げます。

■ 核融合科学専攻 D2・山下東洋さん
Best Student Presentation Award of The 29th International Toki Conference on Plasma and Fusion Research (ITC29) (2020年10月30日)

[受賞者コメント]

指導教員の先生方のおかげで受賞できました。今回は、メインで進めている接合研究の一環として行った研究だったのですが、内容をうまく纏められたことが受賞につながったと考えています。この受賞で気を緩めず、これからの研究を進めたいです。

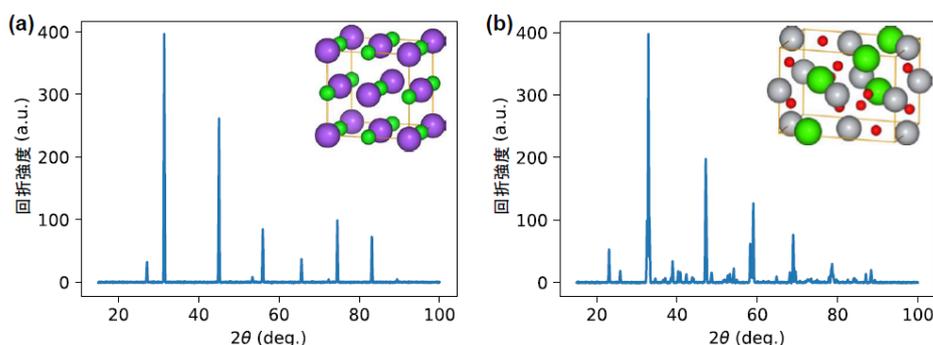


核融合科学専攻受賞者記念写真
(左から山口氏、山崎氏、山下氏、竹入所長)

Press Release

2020.12.11

X線回折パターンからの対称性予測における知識発見



【研究概要】

高エネルギー加速器研究機構（KEK）物質構造科学研究所 量子ビーム連携研究センターの小野寛太 准教授、総合研究大学院大学 高エネルギー加速器科学研究科 鈴木雄太（博士後期課程2年）らの研究グループは、統計数理研究所、東京理科大学と共同で、物質・材料の構造評価に不可欠な計測データである粉末 X 線回折パターン※1 から機械学習を用いて結晶の対称性※2 を予測する手法を開発しました。

さらに機械学習モデルの解析を通じて、これまで明示されていなかった「粉末 X 線回折パターンをみただけでおおよその対称性を推定できる熟練者の経験知」を定式化することに成功しました。この研究で用いた解釈可能な機械学習アプローチにより、熟練者の勘・コツのように研究者間で漠然と共有されていた経験的知識を、計測データの中から発見し定式化することが可能となります。それにより、定式化された知識を用いて誰でも熟練者なみの計測データ解析を効率的に行えるようになり、科学研究を加速することが期待されます。

この研究成果は、英国の学術誌「Scientific Reports」に12月11日オンライン掲載予定です。

【論文情報】

- ・ 掲載誌：Scientific Reports
- ・ 掲載日：2020年12月11日
- ・ 論文タイトル：Symmetry prediction and knowledge discovery from X-ray diffraction patterns using an interpretable machine learning approach
- ・ 著者：鈴木雄太（KEK 物質構造科学研究所/総合研究大学院大学）、日野英逸（統計数理研究所）、羽合孝文（KEK 物質構造科学研究所）、斉藤耕太郎（KEK 物質構造科学研究所）、小嗣真人（東京理科大学）、小野寛太（KEK 物質構造科学研究所/総合研究大学院大学）
- ・ DOI: 10.1038/s41598-020-77474-4

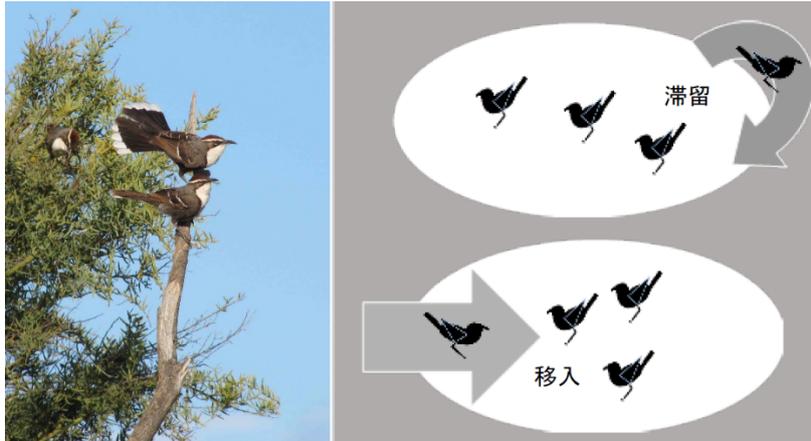
【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/6881/>



2021.1.20

鳥社会にも縁者最頂：ねぐらにおける場所取り競争



クリボウシオーストラリアマルハシの成鳥（左）血縁個体の滞留による家族群形成と非血縁メスの移入（右）

【研究概要】

高度な社会生活を営む動物種はヒトを含む多くの霊長類でよく知られていますが、鳥類においても家族群を形成し、その内部で発達した社会行動を示す種がおよそ 10%存在すると言われています。鳥類では若い個体が群れを出てつがい相手を探すのをやめ、自分の生まれた群れに留まることでつがい以外の血縁個体を含む家族群が形成されます。群れ生活において群れ生まれの血縁者だけが優遇される傾向があれば、若い血縁個体を群れに留める重要な要因になりえますが、この可能性はあまり注目されてきませんでした。私たちは、日本・豪州・英国の共同研究により、家族群を形成するクリボウシオーストラリアマルハシ *Pomatostomus ruficeps* の共同ねぐらにおいて血縁者が優遇されていることを示唆する結果を得ました。本種では、すべての群れメンバーが一つのねぐら巣を共有し、巣内で密接状態になって眠ります。ねぐら巣は安全に温かく眠ることを可能にしますが、巣の入り口付近で眠る個体は外界にさらされやすくなります。本研究では電子 ID タグを導入することで、これまでに類を見ない詳細なねぐら行動の記録を得ることができました。この行動記録からは、群れ外から移入した個体は巣内の占有位置をめぐる競争において不利になっており、群れ生まれの個体が優先的にねぐらの利益を享受していることが読み取れました。ここから、ねぐらにおける競争で不利になることが、若い個体を出生群れか

ら他の群れに移動することを思いとどまらせ、本種の家族群を基本とした社会を維持することに一役買っていると考えられます。

【著者】

野間野史明（総合研究大学院大学・先導科学研究科・日本学術振興会特別研究員）

James L. Savage（英国・University of Cambridge・Department of Zoology；University of Sheffield・Department of Animal & Plant Sciences・研究員）

Lee A. Rollins（豪州・UNSW Sydney・Biological, Earth and Environmental Sciences・Evolution & Ecology Research Centre・研究員）

Simon C. Griffith（豪州・Macquarie University・Department of Biological Sciences・教授）

Andrew F. Russell（英国・University of Exeter・College of Life & Environmental Sciences・Centre for Ecology & Conservation・教授）

【雑誌発表】

- ・ 掲載誌：Behavioral Ecology and Sociobiology
- ・ 論文タイトル：Communal roosting shows dynamics predicted by direct and indirect nepotism in chestnut-crowned babbler
- ・ DOI：https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2020.106540i

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/6905/>



研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム、研究論文助成事業に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/education/rintro/ri-grantedstd/>



■2020 年度（採択）登録情報

事業種別	専攻・氏名	タイトル
研究論文助成	生命共生体進化学専攻 西山 久美子	識字障害関連遺伝子に自然選択は働いたのだろうか？
研究論文助成	生命共生体進化学専攻 岩崎 理紗	胃がんのリスク因子の集団遺伝学
研究論文助成	宇宙科学専攻 修了生 万戸 雄輝	宇宙ゴミの超高速衝突で生じる電氣的現象の解析
研究論文助成	極域科学専攻 伊藤 健太郎	アデリーペンギンは競争を避けつつ食物をとる
研究論文助成	生命共生体進化学専攻 坂本 貴洋	新種誕生の鍵となる『魔法形質』の進化理論
研究論文助成	生理科学専攻 修了生 Woranan Wongmassang	The firing rate changes or the correlated neuronal activity; which is the chief to control the motor signal in the basal ganglia of healthy monkeys?
研究論文助成	基礎生物学専攻 修了生 中沢 香織	目の水晶体（レンズ）形成におけるタンパク質合成制御の仕組み
研究論文助成	生理科学専攻 高橋 泰伽	新しいナノ材料で、生体脳の神経細胞を広く深く高精細にイメージングすることに成功
研究論文助成	天文科学専攻 伊藤 慧	約 120 億年前の宇宙の"都会"に住む銀河はより活発に星を生成していたのか？
研究論文助成	生理科学専攻 修了生 Zlata Polyakova	In search of treatment of movement disorders
研究論文助成	基礎生物学専攻 大熊 直生	「葉」で作られたマイクロ RNA が「根」で根粒の数を増やす機能を持つことを証明
研究論文助成	比較文化学専攻 松井(八木) 風輝	中央アジアの結婚式の司会芸能者「タマダ」と彼らの音楽活動
研究論文助成	情報学専攻 Nicolas BOUGIE	Introducing Human Guidance into Reinforcement Learning via Rule-based Representation
研究論文助成	生命共生体進化学専攻 清古 貴	視覚から探るウミヘビの海生適応
研究論文助成	LUONG HIEU THI	A versatile voice cloning system

■ 国内新聞各紙

【記事タイトル】『量子コンピューター開発に熱気 スパコンで1万年の計算も数分で』（信濃毎日新聞）等

【掲載】機能分子科学専攻 大森 賢治 教授

【日時】2020年6月23日（火）～2020年12月7日（月）

【URL】https://www.ims.ac.jp/news/2021/01/07_4875.html

※大森賢治グループの研究成果「金属状の量子気体」が国内外の多くのメディアで報道されました

■ 分子科学研究所 出版ニュース

【書籍タイトル】『Organic Solar Cells』

【掲載】機能分子科学専攻 平本 昌宏 教授

【日時】2021年1月14日（木）

【URL】https://www.ims.ac.jp/news/2021/01/14_4882.html

※日本初の有機太陽電池に関する英語本 "Organic Solar Cells" が平本教授編集により Springer から出版されました

■ 朝日新聞

【記事タイトル】『「史上初 立皇嗣の礼」研究と公務のバランスぜひ維持して』

【掲載】地域文化化学専攻 池谷 和信 教授

【日時】2020年10月27日（火）

■ 信濃毎日新聞

【記事タイトル】『原爆から10年後 広島・長崎で「原子力平和利用」研究』

【掲載】生命共生体進科学専攻 飯田 香穂里 准教授

【日時】2020年10月27日（火）

■ 日本経済新聞

【記事タイトル】『「文化の風」危機の時代 空想はばたく』

【掲載】地域文化化学専攻 西尾 哲夫 教授

【日時】2020年11月27日（金）

【URL】<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO66682590W0A121C2960E00>

■ U22 サイエンスアスリート（日経電子版）

【記事タイトル】上『探検のはじまりはチンパンジー ヒトはなぜ人間なのか』

下『なぜ脳と体の成長に時間差が？ 人間の一生に戦略あり』

【掲載】人類学者 総合研究大学院大学 長谷川 真理子 学長

【日時】上：2020年11月18日（水）、下：2020年11月20日（金）

【URL】<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO66152700S0A111C2000000?channel=DF110620206174>
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO66261010W0A111C2000000?channel=DF110620206174>

■ 毎日新聞

【記事タイトル】『「アズマリ」の魅力 日本人研究者発信エチオピア 楽師が結ぶ絆』

【掲載】地域文化化学専攻 川瀬 慈 准教授

【日時】2020年11月30日（月）

【URL】<https://mainichi.jp/articles/20201130/dde/007/040/025000c>

■ 読売新聞

【記事タイトル】『「触る」文化 今こそ問う』

【掲載】地域文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2020年12月24日（木）

Event Calendar

日程	イベント名称	実施専攻・基盤機関
2021/3/4-5/18	特別展「復興を支える地域の文化—3.11 から 10 年」 (日高 真吾 教授) https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20210304hukkou/index	国立民族学博物館
2021/3/19	公開講演会「グローバル化する武道と中東」 (相島葉月准教授、河合洋尚准教授)	国立民族学博物館
2021/3/16	特別講義 (山下則子教授、大友一雄教授最終講義) https://www.nijl.ac.jp/activity/education/soken/lecture.html	日本文学研究専攻
申込締め切り 2021/2/15	体験入学募集 (体験入学受け入れ日程 2021 年 3 月 27 日まで) https://sites.google.com/ims.ac.jp/sokendai/	構造分子科学専攻 機能分子科学専攻
2021/2/26/	"核融合科学専攻で学ぼう！研究最前線" https://soken.nifs.ac.jp/archives/admissions_info/admissions_info-6855	核融合科学専攻
2021/4/14/	2021 年度大学院入試説明会 東京会場	核融合科学専攻
2021/4/17/	2021 年度大学院入試説明会 大阪会場	核融合科学専攻
2021/4/24/	2021 年度大学院入試説明会 広島会場	核融合科学専攻
2021/5/14/	2021 年度大学院入試説明会 核融合科学研究所会場	核融合科学専攻

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

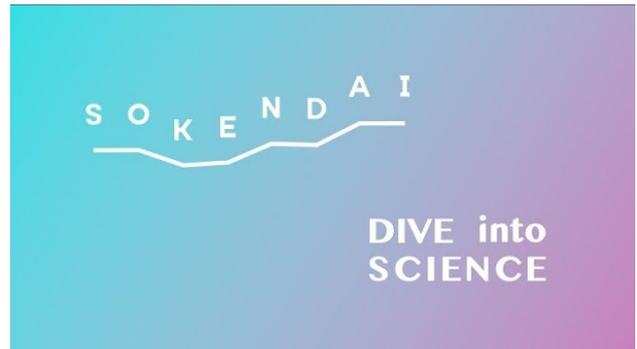
■ お知らせ

総研大をご紹介する動画を YouTube に掲載しております。今後も総研大の動画情報を掲載して参りますので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

【広報社会連携係】

【総研大のご紹介】

<https://www.youtube.com/channel/UC7MuriWACQ7x8SMXFjVRWIg>



■ 編集後記

新型コロナウイルスの発生からちょうど1年が過ぎようとしていますが、1月7日に関東を中心に政府から2度目の緊急事態宣言が発出されるなど、収束にはまだまだ時間がかかりそうです。

例年、科学セミナーなど、様々な中高生向けのイベントを実施してきました。今年度は、残念ながら中止となったイベントも多々ある一方で、感染対策をしっかりと行うなど、工夫して実施したイベントもありました。

コロナ禍においても、子ども達の科学体験の機会を提供できるよう、そして子ども達が探求心を失わ

ず科学に関心を持ち続けてくれるよう、様々なやり方を探っていきたいと思います。

(広報社会連携係 T.S.)

総研大基金によるご支援について

令和2年度4月、本学は戦略的な運営を支える財政基盤を強化すべく、総研大基金を創設しました。この基金を活用して、国際交流の支援、学生支援等を推進して参ります。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。



【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2021年2月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学
総合企画課広報社会連携係
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2021 SOKENDAI